

アンケート調査結果について (中間とりまとめ)

《概要版》

目次

1 集落アンケート調査の概要	
1-1. 調査目的	1
1-2. 調査対象	1
1-3. 調査方法	2
1-4. 設問構成	2
1-5. 分析方針	3
1-6. アンケートの配布・回収状況	3
2 集落アンケート調査の結果	
2-1. 対象集落の基礎的属性	4
2-2. 集落の住民共同活動の実施状況(質問1)	7
2-3. 集落での住民共同活動や支援に対する意識(質問2)	10
2-4. 居住継続に対する意識(質問3・4・5)	15
2-5. 集落元気づくりに向けた取り組み状況と意欲(質問10・11)	22
2-6. 集落の地域資源(質問6・7・8・9)	24
3. 自治体アンケート調査の結果	
3-1. 集落の基本属性	25
3-2. 集落の交流機能・生活機能(質問1)	26
3-3. 集落元気づくりへの協力体制(質問2)	28
3-4. 対象集落の再編の予定(質問4)	28
3-5. 集落支援アイデア(質問3)	29

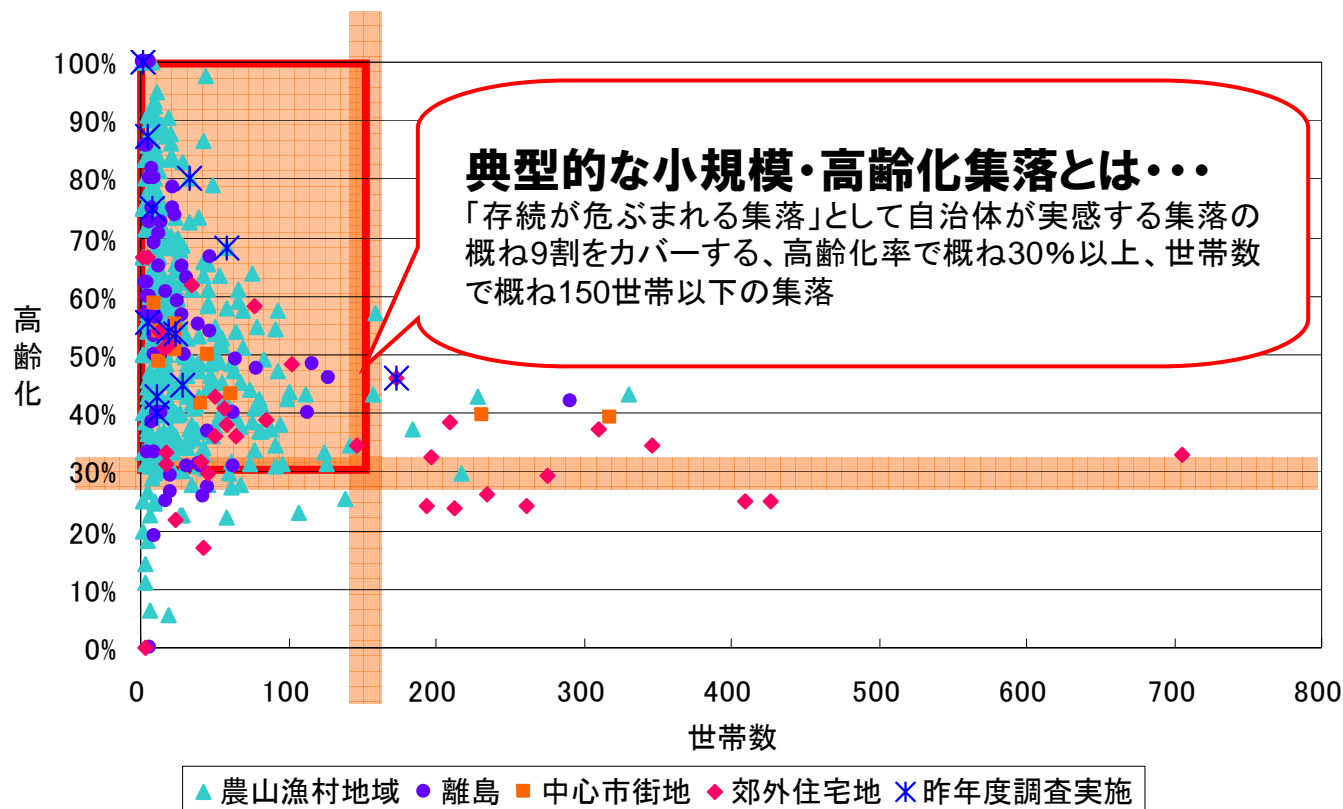
1. 集落アンケート調査の概要

1-1. 調査目的

- ・ 本調査は、小規模・高齢化集落の活力維持・向上に向け、“集落住民が安心して元気が出るくらしの実現”のための支援策を具体的に検討していくための基礎資料にすることを目的とする。

1-2. 調査対象

- ・ 平成19年度調査で存続が危ぶまれると考えられた集落のうち、高齢化率30%以上、世帯規模150世帯以下となる集落を対象とした。(481集落、135自治体)



1-3. 調査方法

- 対象自治体135自治体及び対象集落481集落の代表者に対し、回答期間を平成20年12月～平成21年1月とし、アンケートを実施した。

①集落アンケート

当該自治体に依頼し、集落代表者へ配布、集落代表者からの郵送による回収を行った。

②自治体アンケート

当該自治体に依頼し、郵送による配布・回収を行った。

1-4. 設問構成

①集落アンケート

目的① 集落の安心

集落共同活動、
居住意向と居住継続の不安

共同活動の実施状況及び居住意向と居住継続上の課題

- 集落の共同活動の実施状況
- 集落居住の継続意志、居住継続にあたっての不安
(医療、共同作業、農林漁業、公共交通等)

目的② 取り組み意欲

集落元気づくりへの取り組み

集落元気づくりへの取り組み意欲等

- 集落元気づくりの取り組みへの意欲やアイデア
- 他出者や大学等外部組織・人材とのつながりの必要性

目的③ 集落の元気

活用可能な地域資源

活用可能な地域資源や残したい地域資源

- 活用可能な地域資源等の把握
(景観や食材、伝統芸能の他、祠、習慣、空き屋、遊休農地、放棄山林、等)

②自治体アンケート

目的① 基礎的情報把握

集落機能維持にかかわる
基礎的情報

対象集落の生活機能・資源

- 交流・コミュニティ施設の状況(集会施設、学校施設等)
- 生活サービスの状況(社会基盤、公共交通、医療福祉、商業施設等)

目的② 協力意欲等の把握

自治体の協力意欲
外部支援の可能性

集落元気づくりへの協力意欲等

- 集落元気づくりの取り組みへの自治体の協力意欲
- 集落元気づくりの取り組みにあたってのアイデアの提案
- 対象集落における集落単位見直しの予定

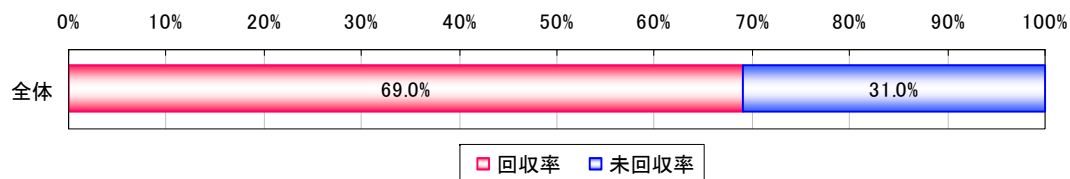
1-5. 分析方針

- ・ 集落アンケートと自治体アンケートから把握される基本属性情報(世帯規模、高齢化率、生活中心都市までの時間距離等)の結果にもとづき、分析を行う。
- ・ 元気づくりのアイデアについては、「安心」、「元気」、「外部交流」の3つに分類、整理する。

1-6. アンケートの配布・回収状況

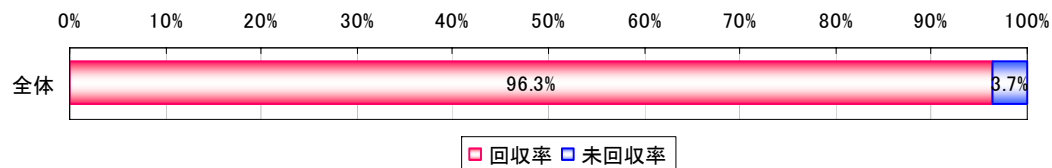
①集落アンケートの配布・回収状況 (平成21年1月23日現在)

集落アンケートの配布は九州圏の481集落の代表者に対して行い、現在までに332集落(回答率69.0%)から回答を得た。

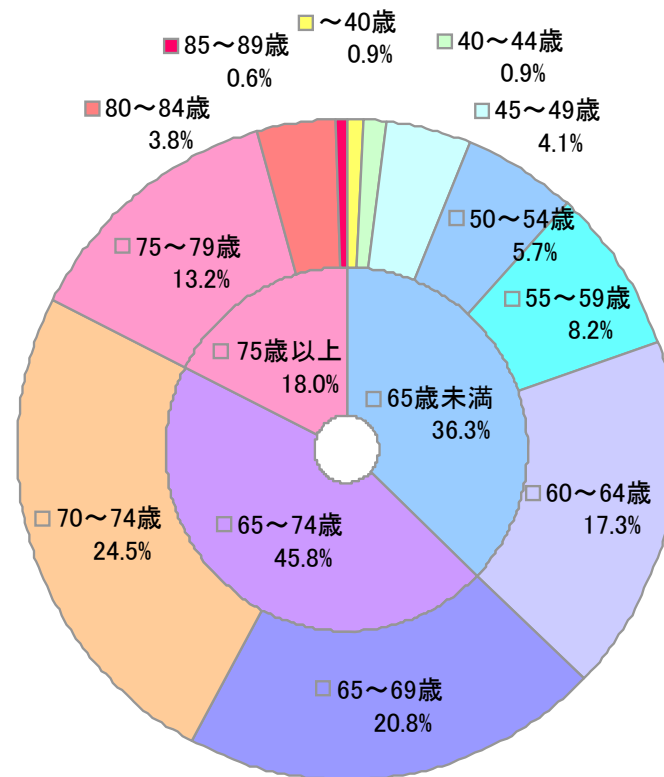


②自治体アンケートの配布・回収状況 (平成21年1月23日現在)

自治体アンケートの配布は九州圏の135市町村に対して行い、現在までに130自治体(回答率96.3%)から回答を得た。



③回答者(集落代表者)の年齢区分



2. 集落アンケート調査の結果

2-1. 対象集落の基礎的属性

(1) 集落の世帯規模

- ・20世帯未満の集落の割合は、長崎県(73.5%)、大分県(67.8%)、鹿児島県(66.0%)、佐賀県(64.3%)で高くなっている。
- ・各県とも、20世帯以上50世帯未満の集落数は、約3割を占める。
- ・一方、50世帯以上の集落の割合は、宮崎県(32.1%)、福岡県(26.6%)で高くなっている。

(2) 集落の高齢化率

- ・高齢化集落(65歳人口以上が全人口に占める比率が50%以上の集落)の割合は、鹿児島県(81.9%)、長崎県(76.5%)、次いで大分県(74.6%)で高くなっている。
- ・高齢化率が50%未満の集落の割合をみると、福岡県(71.9%)、佐賀県(60.7%)で高くなっている。

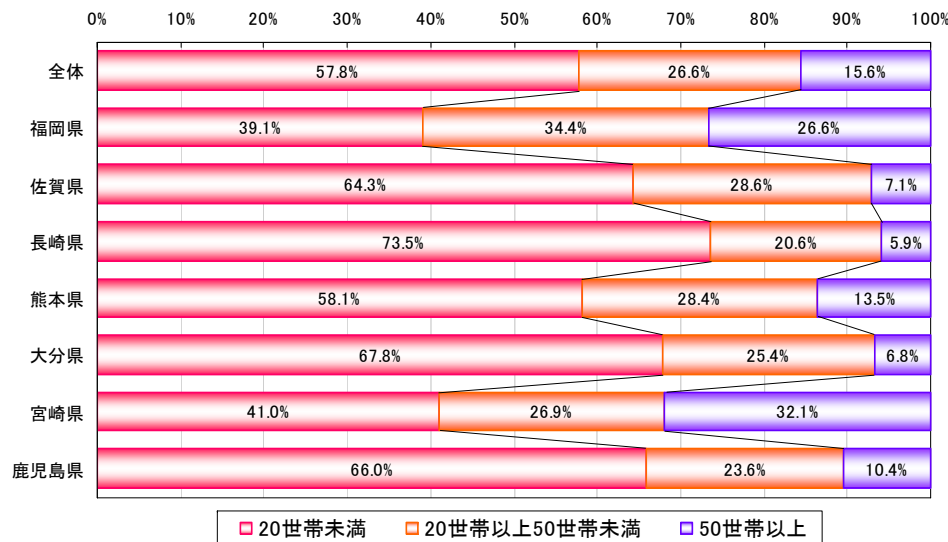


図 集落の県別・世帯規模

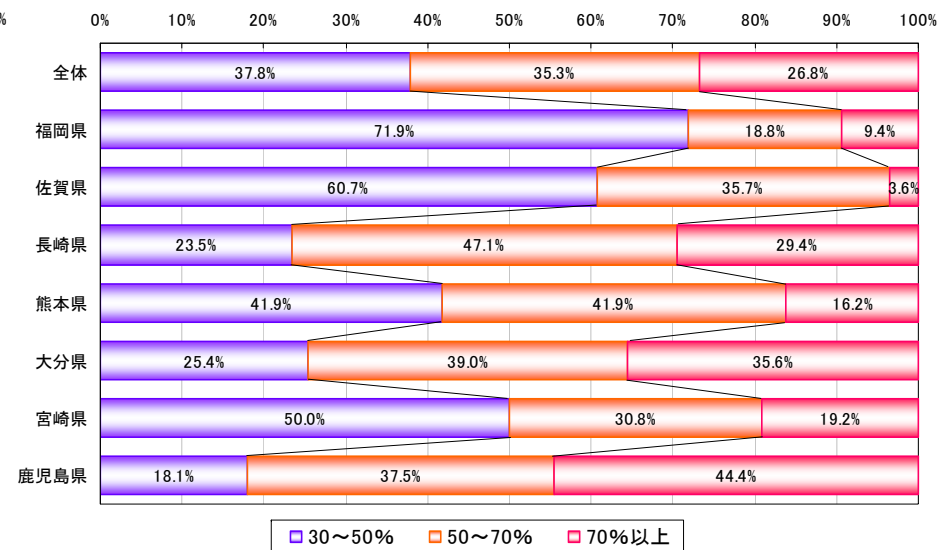


図 集落の県別・高齢化率

2-1. 対象集落の基礎的属性

(3) 集落の世帯規模・高齢化率との関係

- ・世帯規模が小さいほど、高齢化率50%以上の集落の割合(76.6%)は高くなっている。

(4) 生活中心都市までの時間距離

- ・生活中心都市までの時間距離が30分未満の集落の割合は、佐賀県(89.3%)、福岡県(81.2%)、次いで大分県(77.2%)で高くなっている。
- ・生活中心都市までの時間距離が60分以上の集落の割合は、鹿児島県(31.3%)、次いで長崎県(29.4%)と離島の多い県で高くなっている。

表 集落の世帯規模・高齢化率

世帯数(ランク別)	30~50%	50~70%	70%以上	計
20世帯未満	65	100	113	278
20世帯以上 50世帯未満	60	52	16	128
50世帯以上	57	18		75
計	182	170	129	481

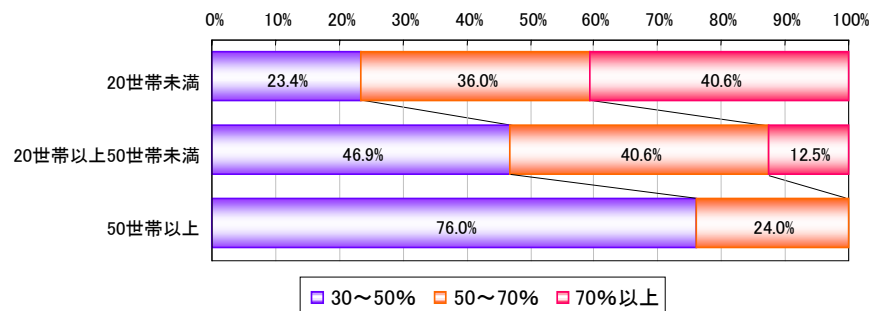


図 集落の世帯規模・高齢化率

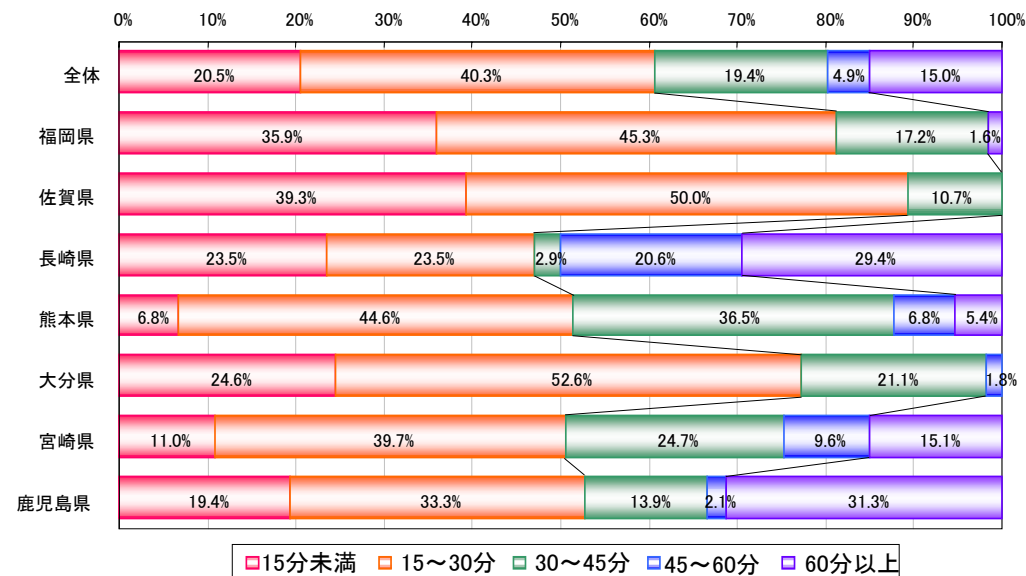


図 生活中心都市までの時間距離

2-1. 対象集落の基礎的属性

(5) 集落類型区分

- ・集落の類型区分は基礎集落が93.0%となり、ほとんどを占める。
次いで基幹集落(5.0%)、中心集落(2.0%)となっている。

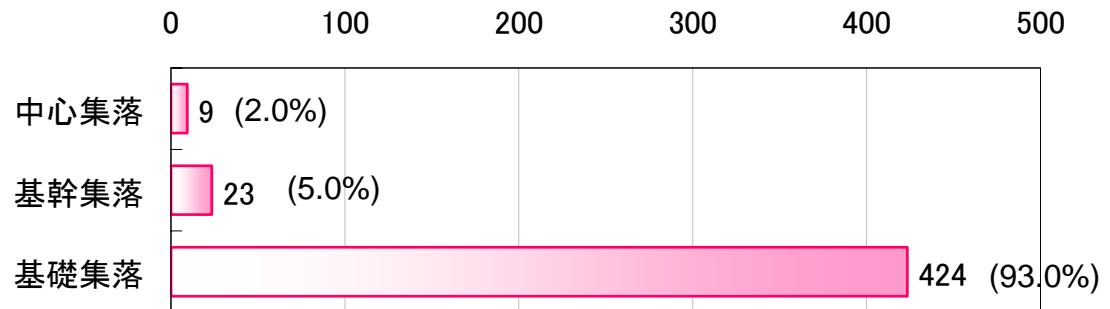


図 集落類型区分

(単位：集落数)

※集落類型区分の定義

○集落の類型区分については、明確な定義はないが、ここでは以下のように分類した。

中心集落：地域の中心的な集落であり、古くから地域の要所となっていたため、役場等の行政機関や事務所等が集積する。

基幹集落：基礎集落の分布の中にあって、住民の日常生活上、集落間の要となって存続している集落となる。主として谷筋の分岐点やその他バス停留所があるなど交通上の要所で、日常的な買い物ができるような商店も立地している(あるいはかつては立地していた)地域に分布する。

基礎集落：地域社会を構成する最も基礎的かつ原单位的な集落であり、いずれの地域にも広く分布する。(中心集落、基幹集落以外のものは、これに分類)

2-2. 集落の住民共同活動の実施状況(質問1)

(1) 農林作業の実施状況

- ・農林作業の共同活動は「行われていない」※との回答が約7～9割を占める。
- ・農林作業の住民共同作業が「行われなくなった」主な要因として「人口の減少」、「人口の高齢化」との回答が多くなっている。
- 「農作業の手間がえ、結い」では「農外就労の増加」や「農林業の低迷」との回答が多く、「集落共有の山林・牧野の共同作業」では「農林業の低迷」との回答も多くなっている。
- ・農林作業の住民共同作業が「最近行われるようになった」主な要因は、「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」との回答が多くなっている。

※「行われていない」とは、「以前から行われていない」、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」

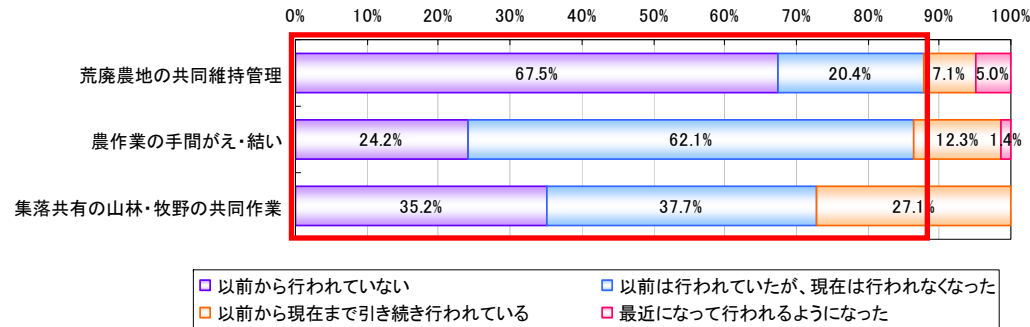
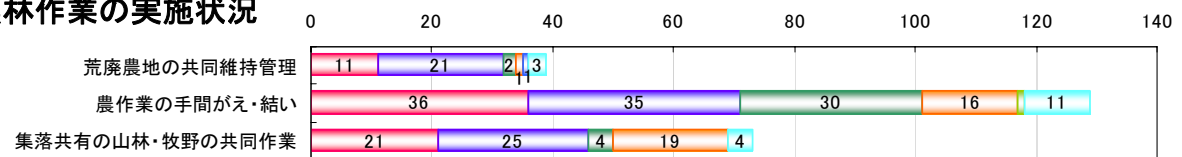


図 農林作業の実施状況



(単位：集落数)

図 農林作業が「行われなくなった」主な要因

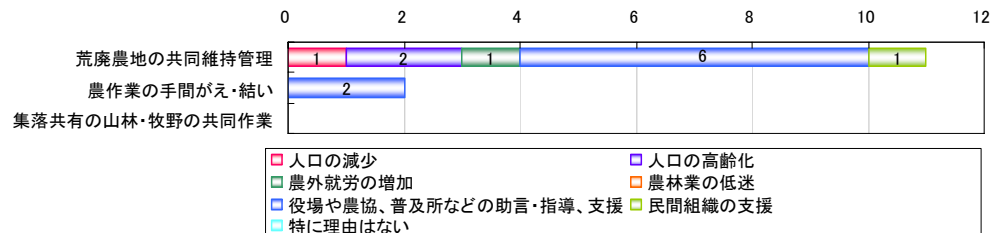


図 農林作業が「最近行われるようになった」主な要因 (単位：集落数)

2-2. 集落の住民共同活動の実施状況(質問1)

(2) 共有資産管理の実施状況

- ・共有資産管理の実施状況は、「以前から現在まで引き続き行われている」との回答が約6~8割を占める。
- ・集落の共有資産管理が「行われなくなった」主な要因は、「人口の減少」、「人口の高齢化」との回答が多くなっている。
- ・共有資産管理が「最近行われるようになった」主な要因は、「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」との回答が多くなっている。

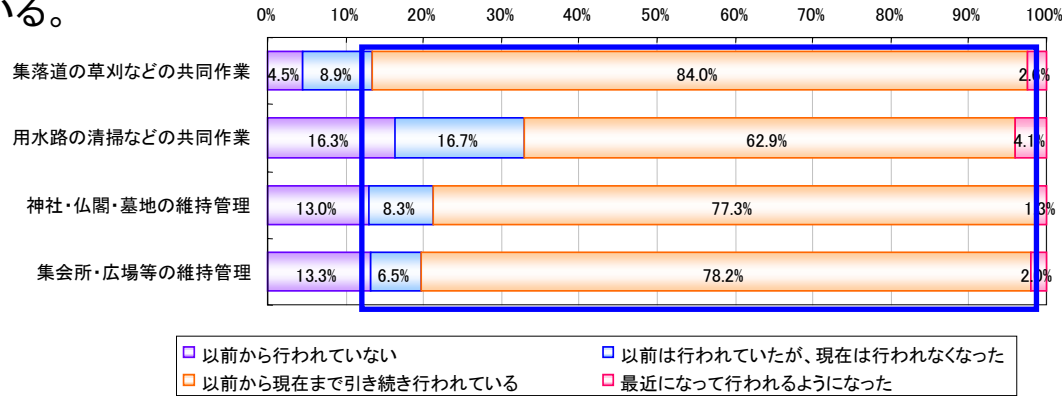


図 共有資産管理の実施状況

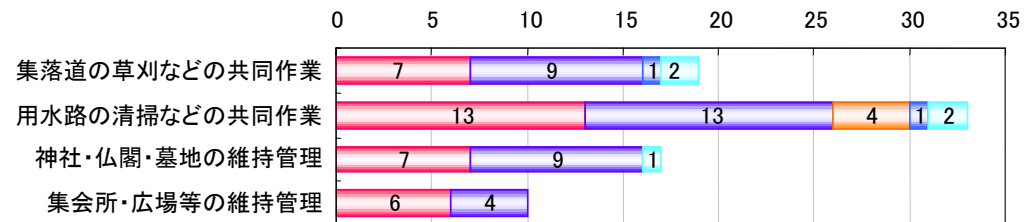


図 共有資産管理が「行われなくなった」主な要因 (単位：集落数)

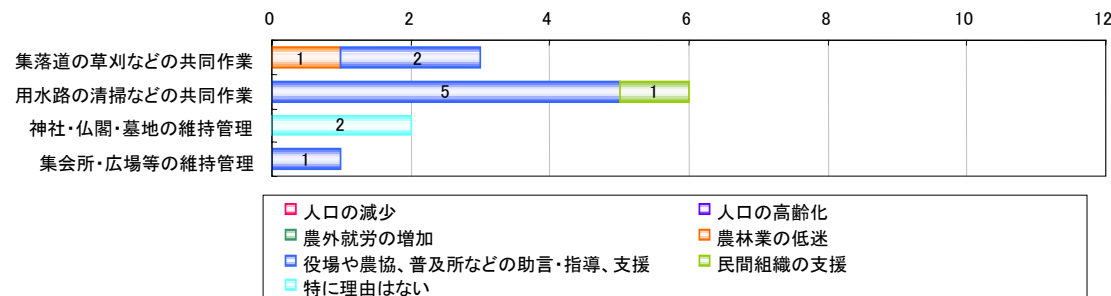


図 共有資産管理が「最近行われるようになった」主な要因 (単位：集落数)

2-2. 集落の住民共同活動の実施状況(質問1)

(3) 冠婚葬祭等の実施状況

- ・冠婚葬祭等の実施状況について、「集落内での祭り」や「集落内での葬儀の実施」、「運動会や旅行などのレクリエーションの実施」では、「以前から現在まで引き続き行われている」との回答が約4～6割を占める。一方、伝統芸能の継承活動では、「以前から行われていない」との回答が最も高く約5割を占める。
- ・冠婚葬祭等が「行われなくなった」主な要因は、「人口の減少」、「人口の高齢化」との回答が多くなっている。

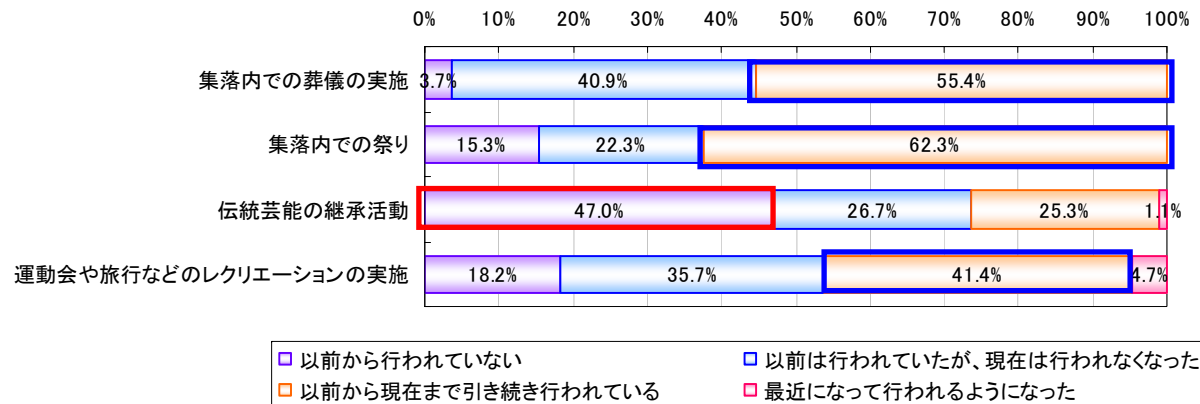


図 冠婚葬祭等の実施状況

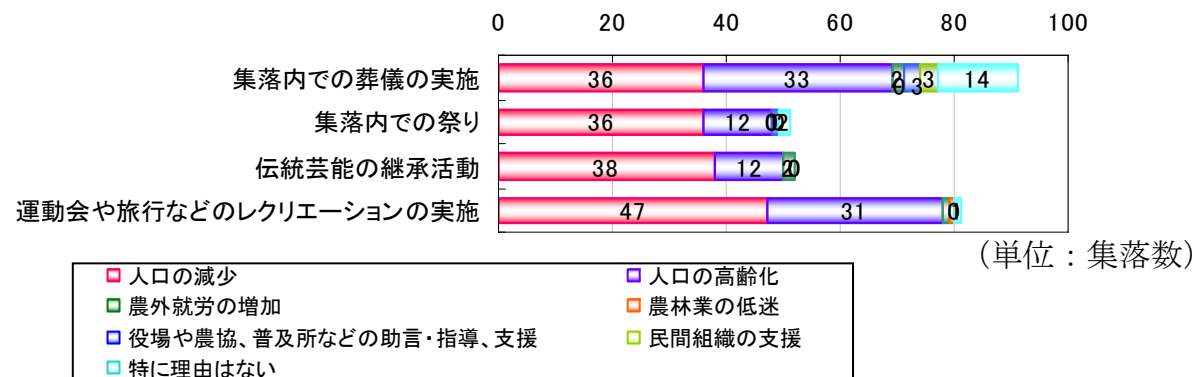


図 冠婚葬祭等が「行われなくなった」主な要因

2-3. 集落での住民共同活動や支援に対する意識(質問2)

(1) 農林作業の重要性への意識(重要度)

- ・農林作業(住民共同活動)は、「重要である」※1との回答が約3~4割を占め、「重要ではない」※2より、若干高くなっている。
- ・「集落共有の山林・牧野の共同作業」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。
- ・「集落共有の山林・牧野の共同作業」をみると、高齢化率が高くなるほど、その重要度は低くなっている。

※1「重要である」とは、「やや重要である」、「たいへん重要である」

※2「重要ではない」とは、「まったく重要ではない」、「あまり重要ではない」

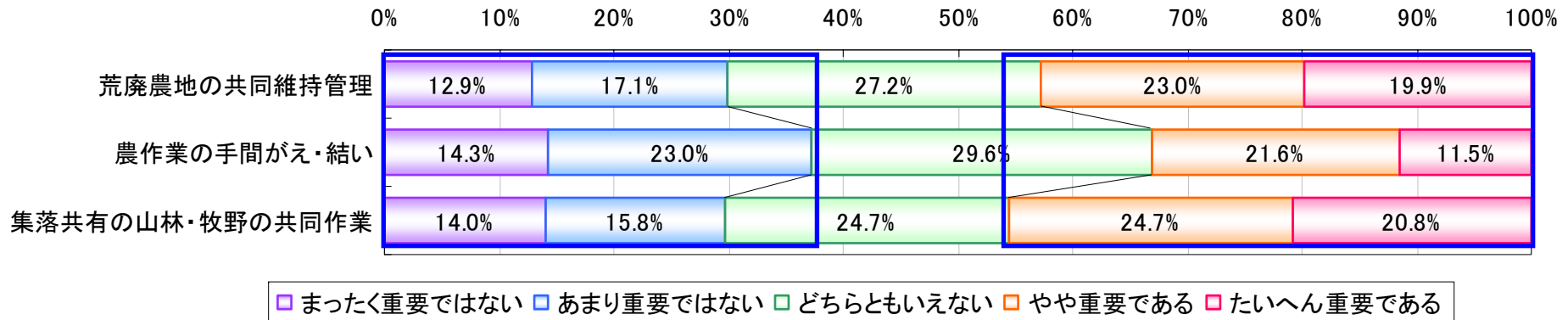


図 農林作業の重要度

<世帯規模>

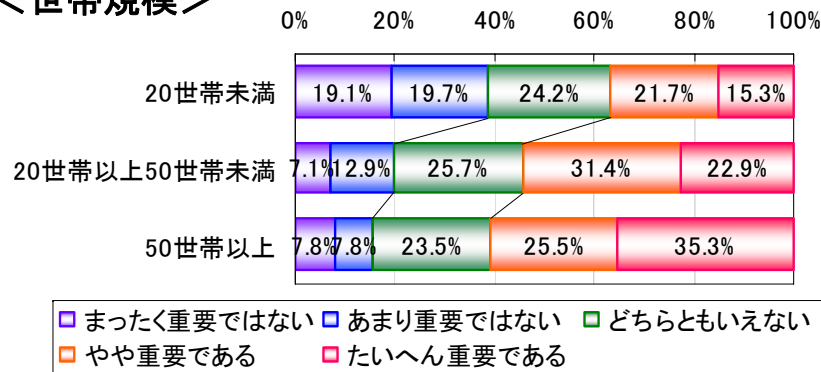


図 集落共有の山林・牧野の共同作業

<高齢化率>

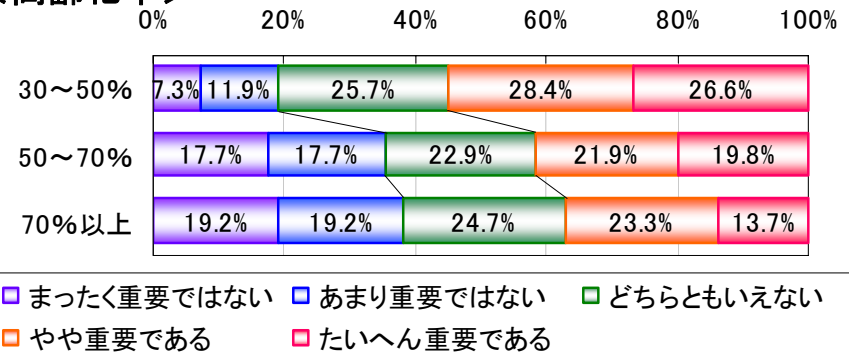


図 集落共有の山林・牧野の共同作業

2-3. 集落での住民共同活動や支援に対する意識(質問2)

(2) 共有資産管理の重要性への意識(重要度)

- ・共有資産管理は、「重要である」との回答が、全体の約8割～9割を占める。
- ・「集会所・広場等の維持管理」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。
- ・「集会所・広場等の維持管理」をみると、高齢化率が高くなるほど、その重要度は低くなっている。

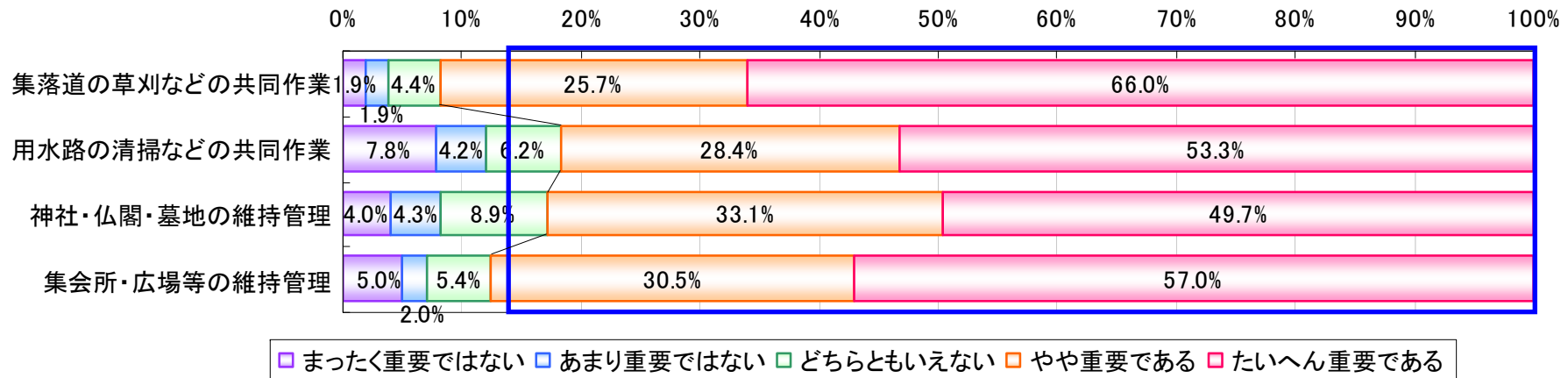


図 共有資産管理の重要度

<世帯規模>

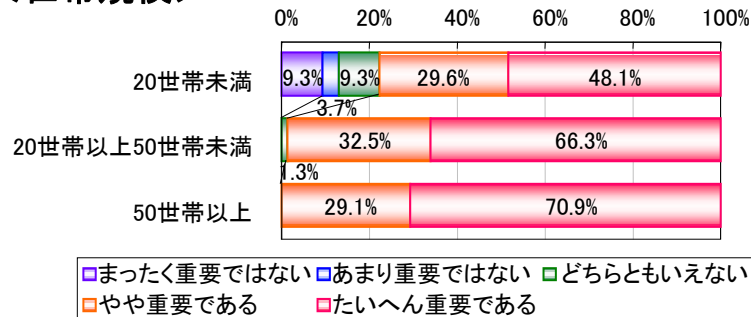


図 集会所・広場等の維持管理

<高齢化率>

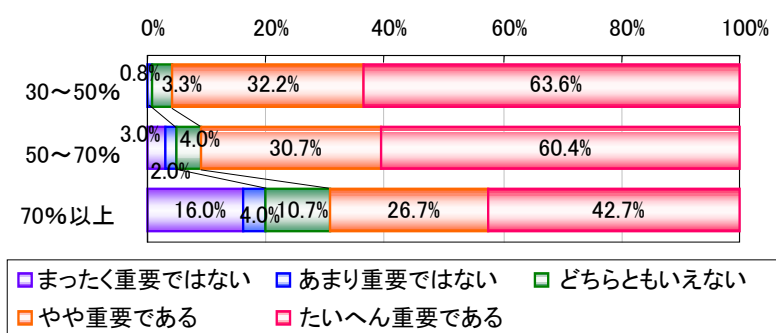


図 集会所・広場等の維持管理

2-3. 集落での住民共同活動や支援に対する意識(質問2)

(3) 冠婚葬祭等の重要性への意識(重要度)

- ・冠婚葬祭等は、「重要である」との回答が約4～5割、「重要でない」との回答が約2～3割を占め、「重要である」の割合が若干高くなっている。
- ・「伝統芸能の継承活動」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。
- ・「伝統芸能の継承活動」をみると、高齢化率が高くなるほど、その重要度は低くなっている。

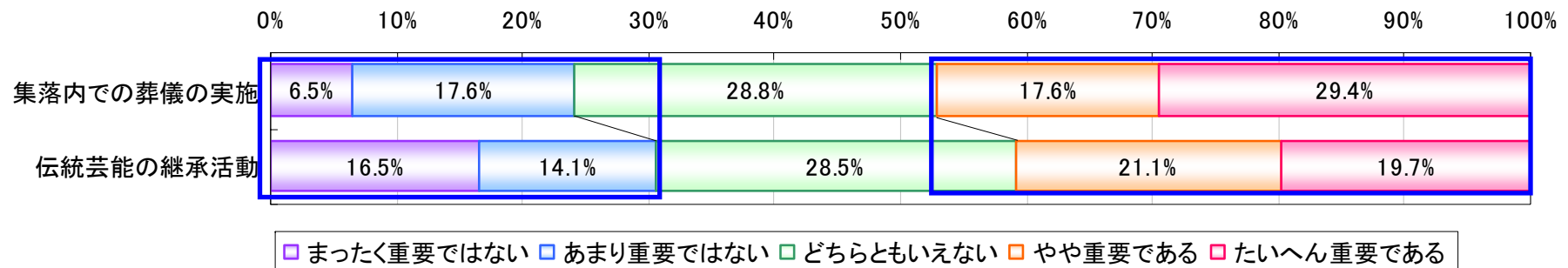


図 冠婚葬祭等の重要度

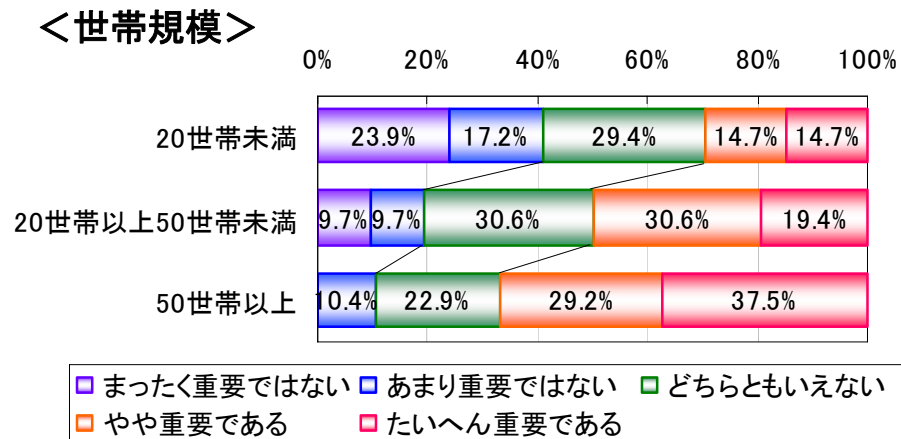


図 伝統芸能の継承活動

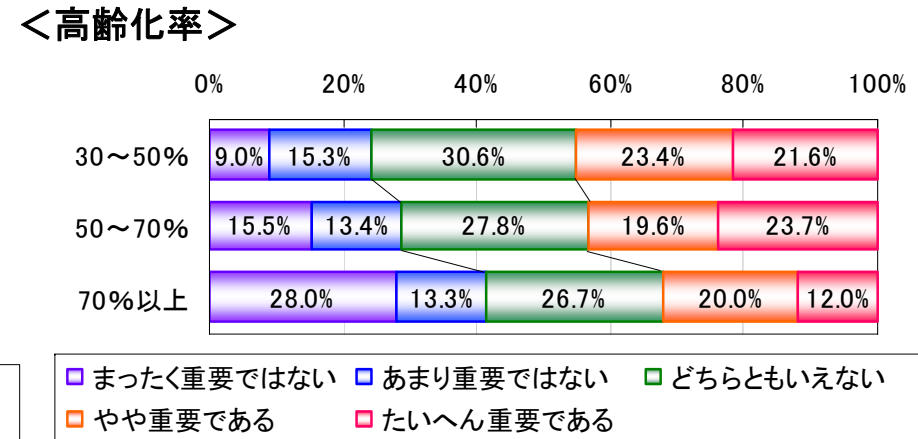


図 伝統芸能の継承活動

2-3. 集落での住民共同活動や支援に対する意識(質問2)

(4) 住民協働体制の重要性への意識(重要度)

- ・住民協働体制は、「重要である」との回答が、全体の約6～9割を占める。
- ・但し、「外部の人や団体からの支援受け入れ」については、「重要である」との回答が約6割と他より低くなっている。
- ・「集落内の寄り合いや話し合いの活性化」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。
- ・「集落内の寄り合いや話し合いの活性化」をみると、高齢化率が高くなるほど、その重要度は低くなっている。

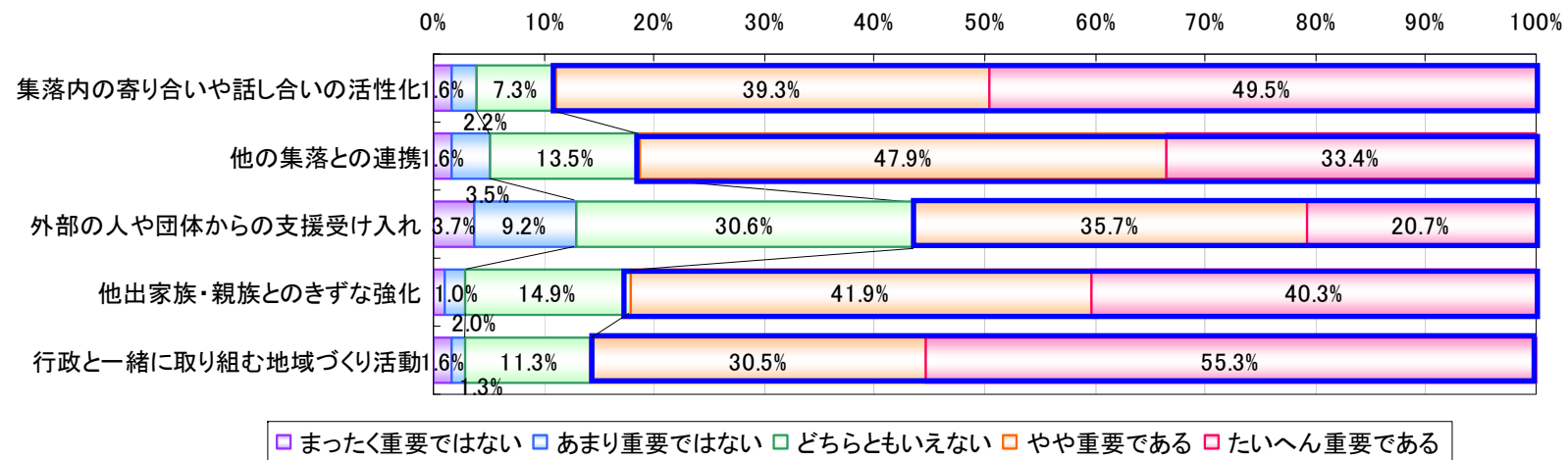


図 住民協働体制の重要度

<世帯規模>

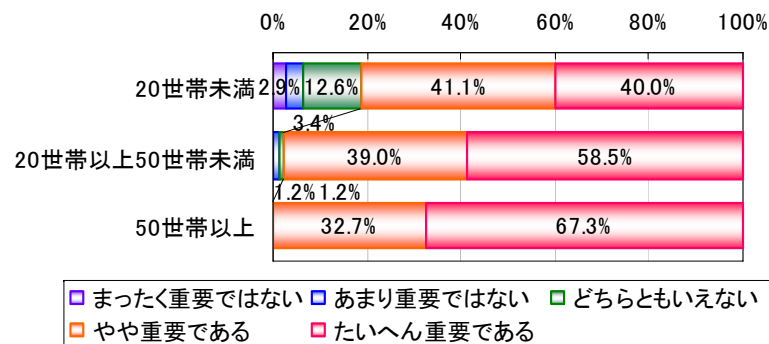


図 集落内の寄り合いや話し合いの活性化

<高齢化率>

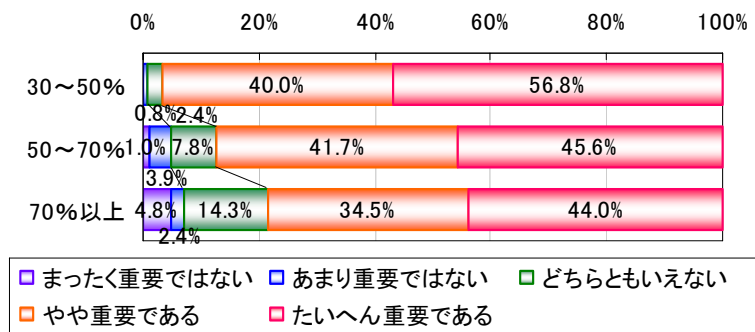


図 集落内の寄り合いや話し合いの活性化

2-3. 集落での住民共同活動や支援に対する意識(質問2)

(5) 生活支援の重要性への意識(重要度)

- ・生活支援は「重要である」との回答が、全体の約6~9割を占める。
- ・特に「住民の足の便の確保」については、「たいへん重要である」との回答が約7割を占める。

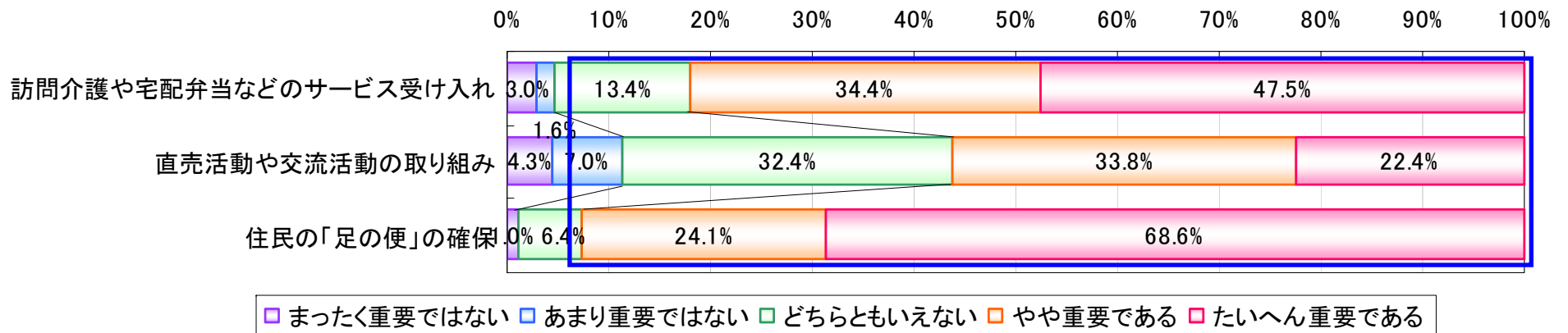


図 生活支援の重要度

2-4. 居住継続に対する意識

(1) 居住継続への意識(質問3)

- ・「今後とも住み続けたい」との回答は約7割(223集落)を占める。一方で、「状況によっては離れざるを得ない」、「離れるつもり」との回答が、合わせて約3割(90集落)を占める。
- ・世帯規模が小さくなるほど、「集落を離れざるを得ない」、「離れるつもりである」との回答が多くなっている。
- ・高齢化率が高くなるほど、「集落を離れざるを得ない」、「離れるつもりである」との回答が多くなっている。

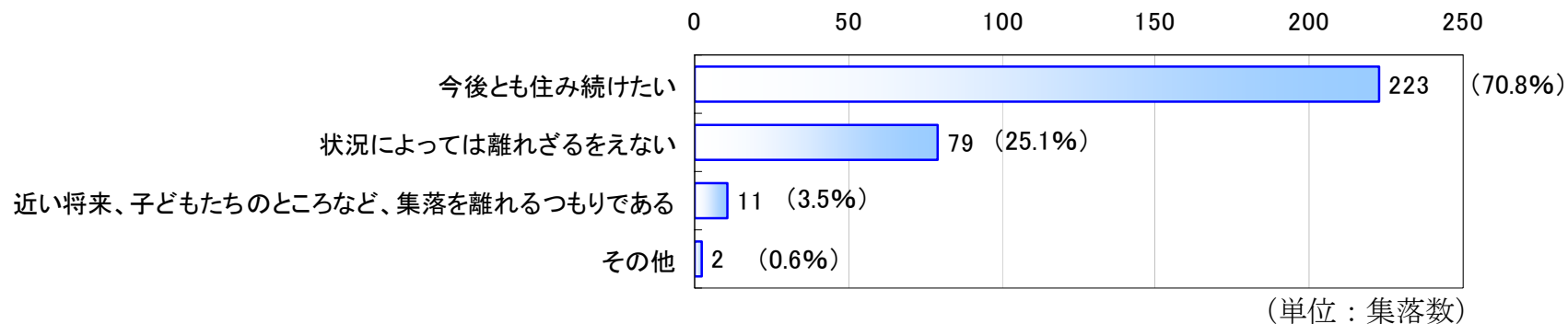


図 居住継続に対する意識

<世帯規模>

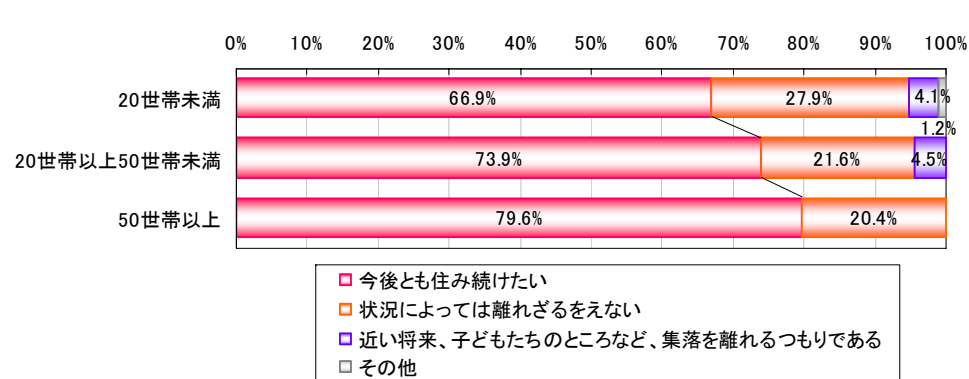


図 世帯規模と居住継続に対する意識

<高齢化率>

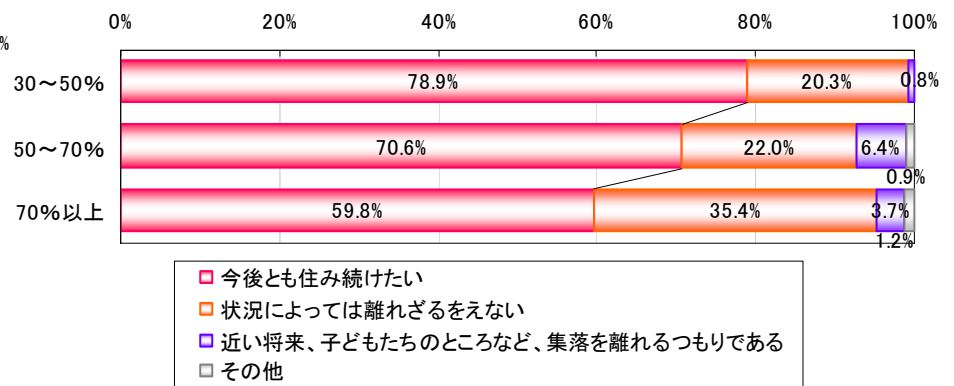


図 高齢化と居住継続に対する意識

2-4. 居住継続に対する意識

(2) 集落で今後居住を継続する上での不安(質問4)

① 農林作業における不安

- ・農林作業は、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約9割を占める。
- ・「鳥獣被害が増加している」は、「大いに不安」との回答が、約5割を占める。

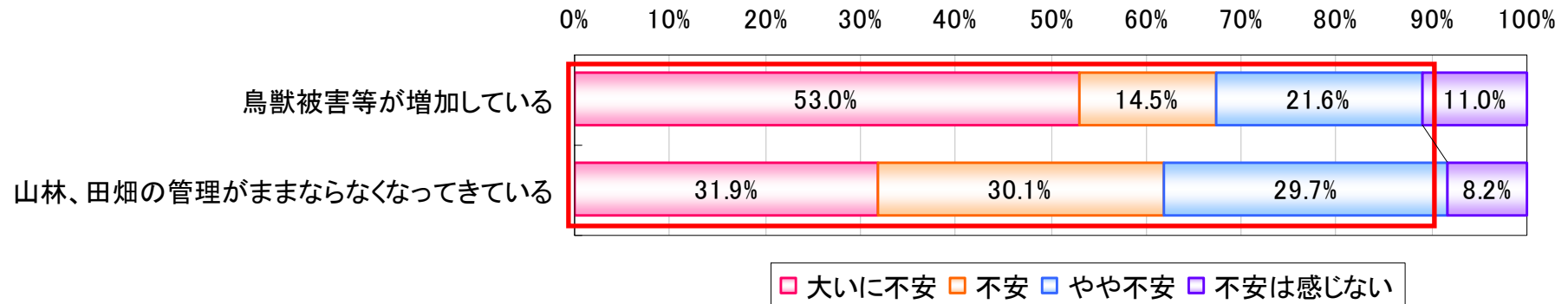


図 農林作業における不安

2-4. 居住継続に対する意識

(2) 集落で今後居住を継続する上での不安(質問4)

② 集団活動(コミュニティ活動)における不安

- ・コミュニティ活動は、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約7~9割を占める。
- ・「隣近所のつきあいが減っている」について、「不安に感じない」との回答が約3割を占める。

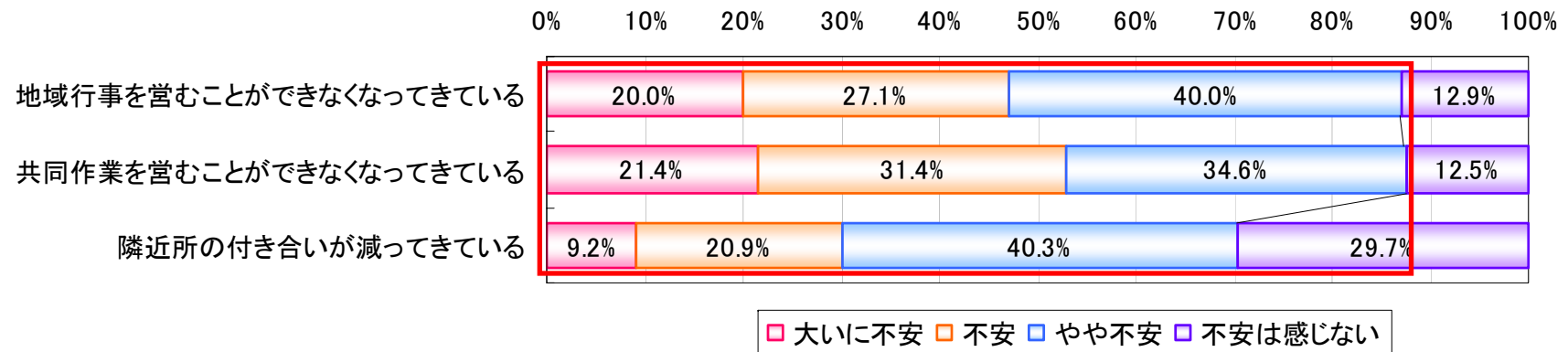


図 集団活動における不安

2-4. 居住継続に対する意識

(2) 集落で今後居住を継続する上での不安(質問4)

③生活サービスにおける不安

- ・生活サービスは、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約7~9割を占める。
- ・「医療施設が遠い」について、「大いに不安」との回答が約4割を占める。
- ・「近くに働く場が無くなってきている」について、「大いに不安」との回答が約3割を占める。
- ・「今後とも住み続けたい」と回答した集落ほど、「不安は感じない」との回答の割合が高くなっている。

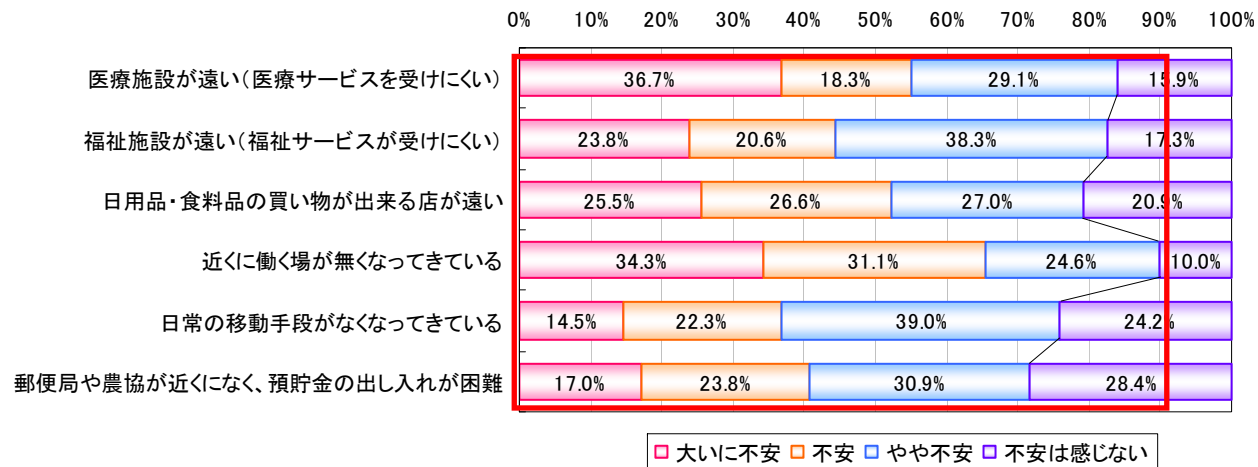


図 生活サービスにおける不安

<居住継続意志>

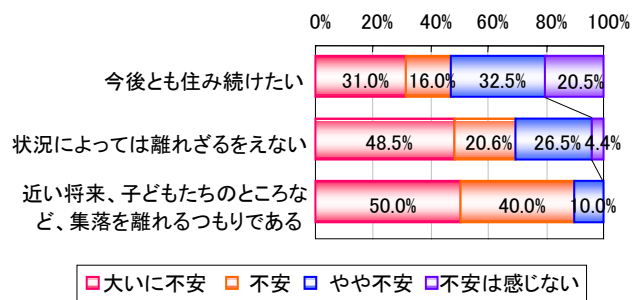


図 医療施設が遠い(サービスを受けにくい)

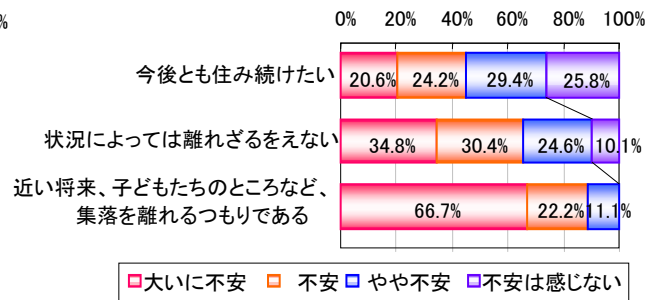


図 日用品・食料品の買い物が出来る店が遠い

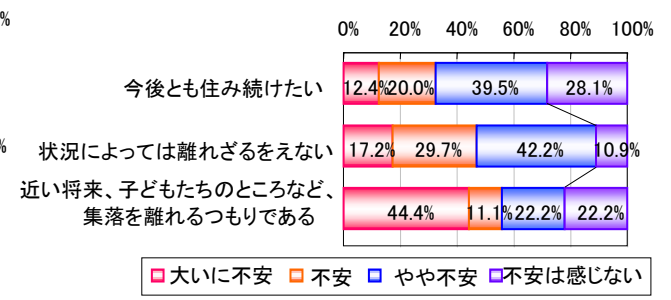


図 日常の移動手段がない

2-4. 居住継続に対する意識

(2) 集落で今後居住を継続する上での不安(質問4)

④ 災害発生時における不安

- ・災害発生時は、「大いに不安」、「不安」、「やや不安」との回答が、合わせて約7~8割を占める。
- ・「今後とも住み続けたい」集落ほど、「不安を感じない」割合が高くなる傾向がある。

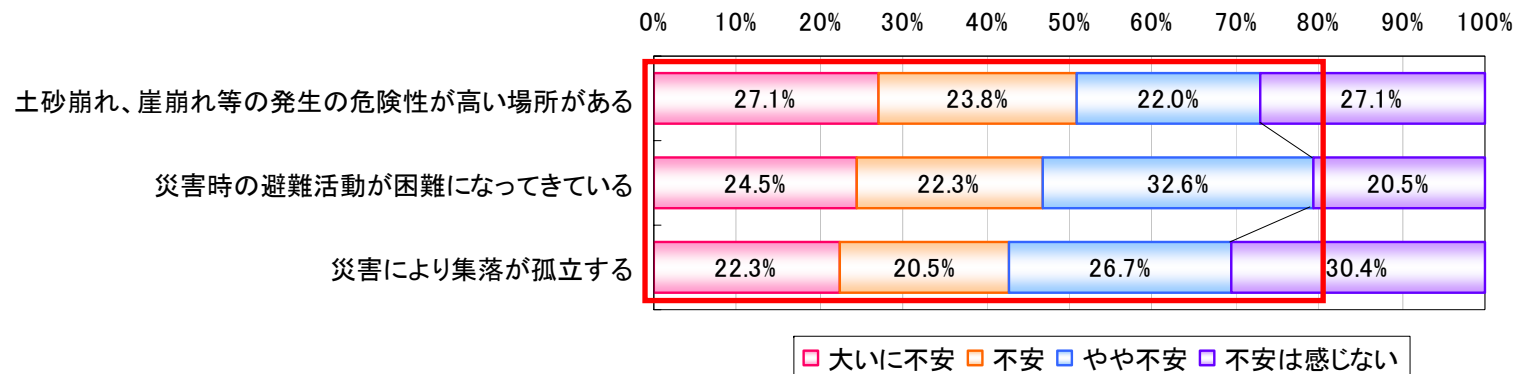


図 災害発生時における不安

< 居住継続意志 >

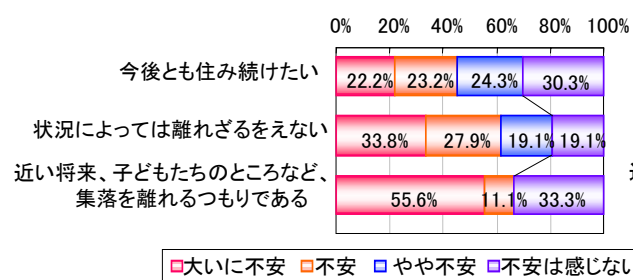


図 土砂崩れ、崖崩れ等の発生危険箇所の存在

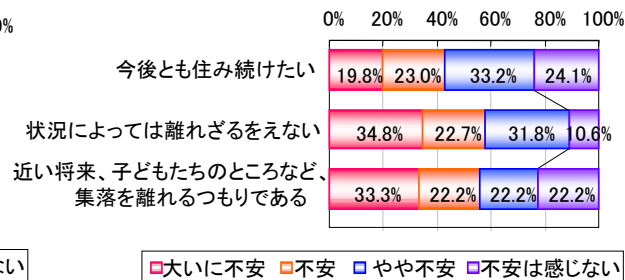


図 災害時の避難活動が困難になってきている

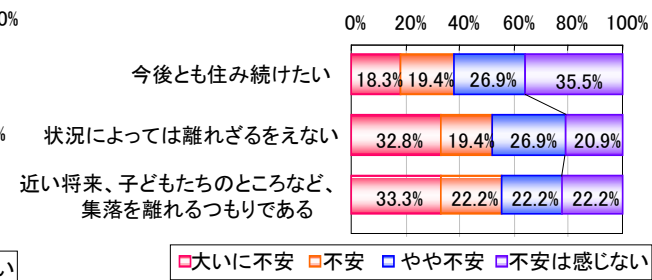


図 災害による孤立

2-4. 居住継続に対する意識

(2) 集落で今後居住を継続する上での不安(質問4)

⑤ 今後居住を継続する上での不安の度合い

- ・不安を感じる項目上位3つをたずねたところ、「医療施設が遠い」(116集落)が最も多く、次いで「鳥獣被害等が増加している」(94集落)となっている。
- ・地域コミュニティ活動の不安では、「隣近所の付き合いが減ってきている」(16集落)と他に比べ少なくなっている。

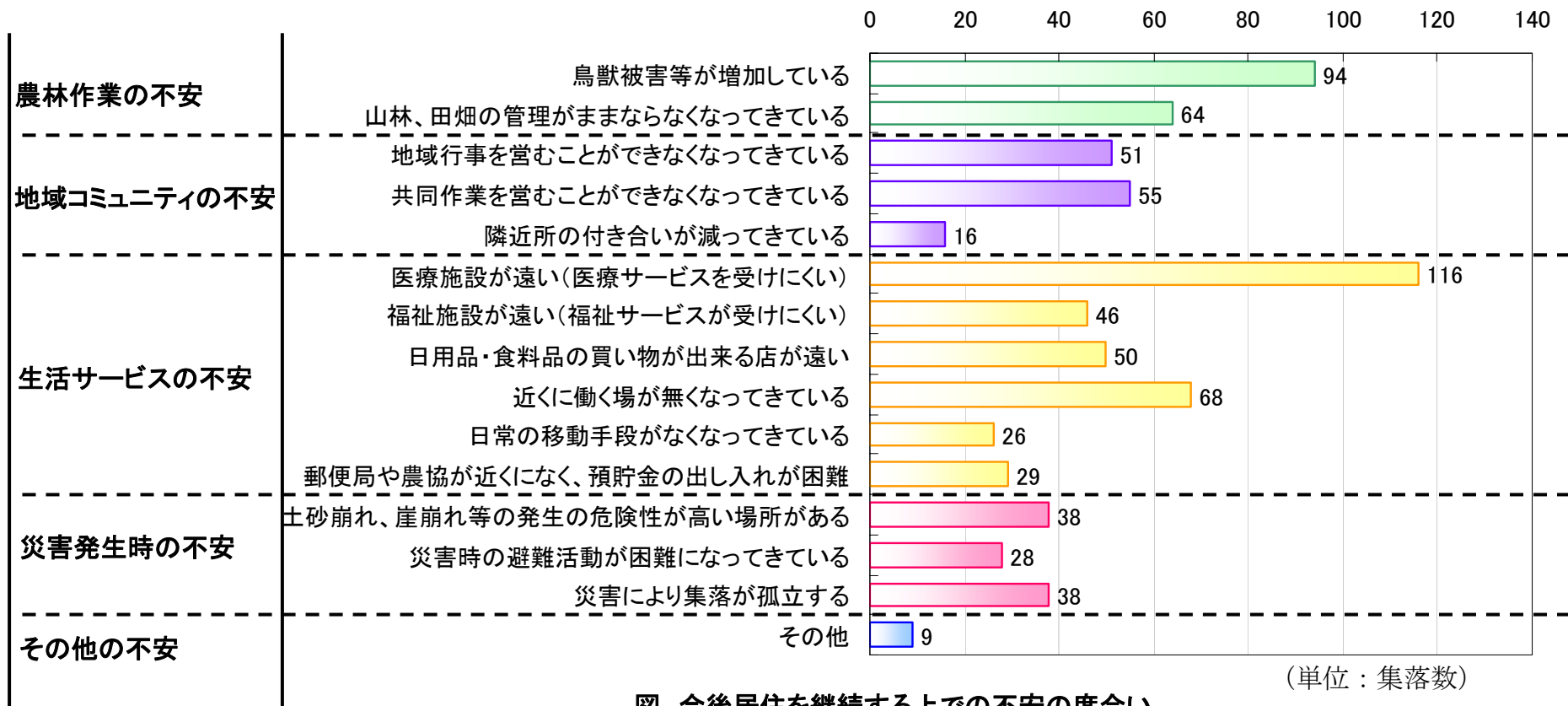


図 今後居住を継続する上での不安の度合い

2-4. 居住継続に対する意識

(3) 今後居住を継続する上で必要な支援体制(質問5)

- ・最も重要な支援体制は、「国や自治体の支援・協力」との回答が105集落となり、次いで「集落内の相互扶助」との回答が70集落と多くなっている。
- ・必要な支援体制について、「集落の相互扶助」「国や自治体の支援・協力」は、「とても必要」、「必要」との回答が、合わせて約9割を占める。
- ・「集落外の支援者からの支援」は、「不必要」である割合が、他と比較して高くなっている。

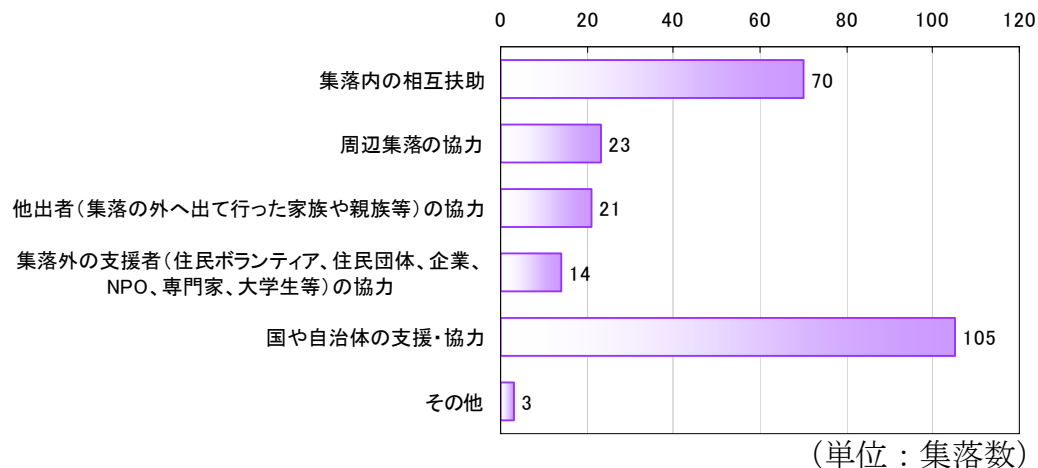


図 今後居住を継続する上で最も重要な支援体制

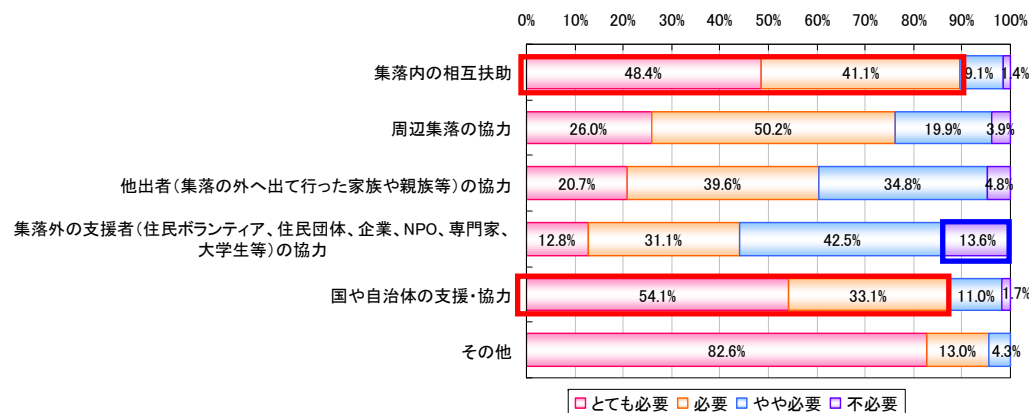


図 今後居住を継続する上で必要な支援体制

2-5. 集落元気づくりに向けた取り組み状況と意欲

(1) 集落元気づくりに向けた取り組み(質問10)

- 「既の実施している」との回答が17.4%となり、「取り組み意欲がある」との回答が合わせて47.1%、「今のところ取り組む気はない」との回答が35.5%となっている。
- 世帯規模が大きくなるほど、「既の実施している」の割合が高くなっている。
- 集落元気づくりへの取り組み意欲は集落規模が20世帯以上50世帯未満が最も高く(54.5%)、次いで20世帯未満(46.9%)、50世帯以上(36.2%)となっている。

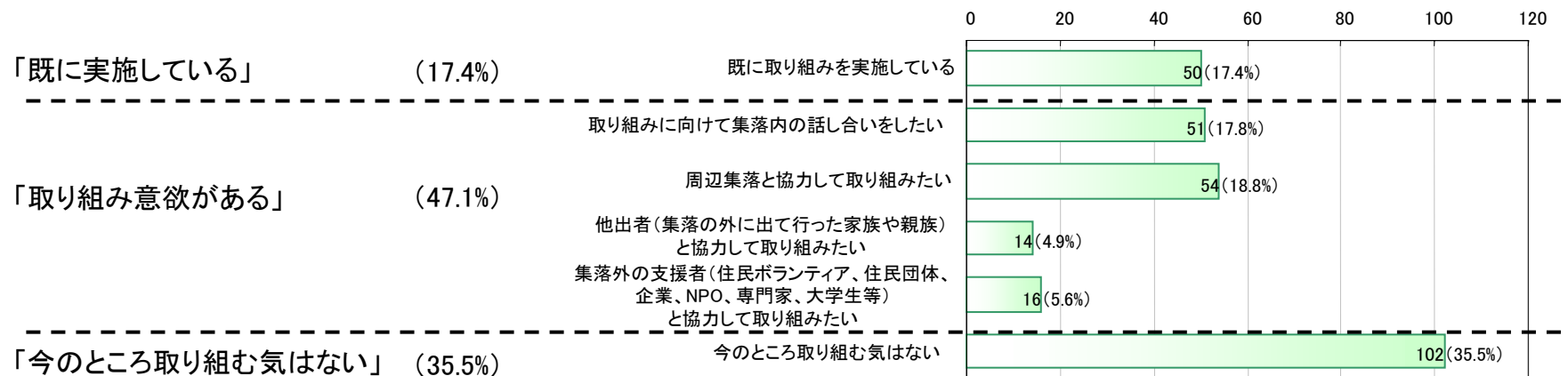


図 集落元気づくりに向けた取り組み (単位：集落数)

<世帯規模>

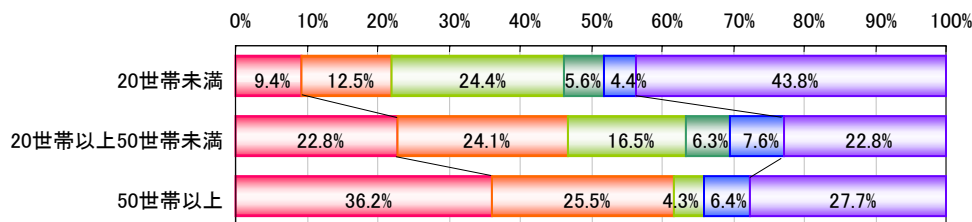


図 集落元気づくりに向けた取り組み

<高齢化率>

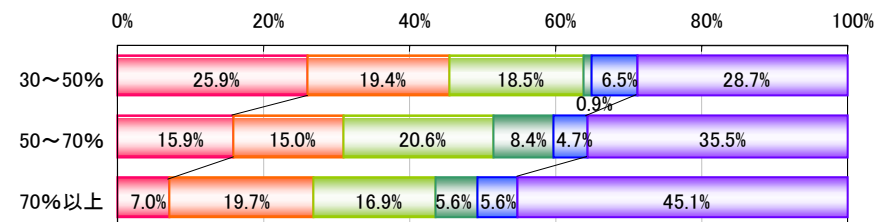
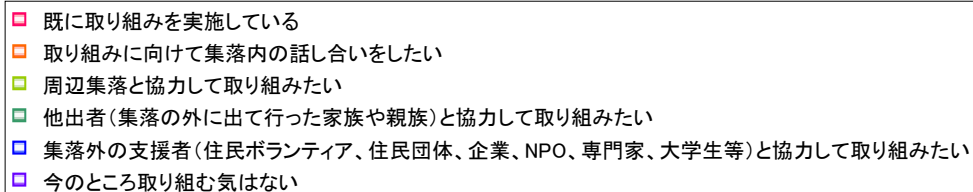


図 集落元気づくりに向けた取り組み

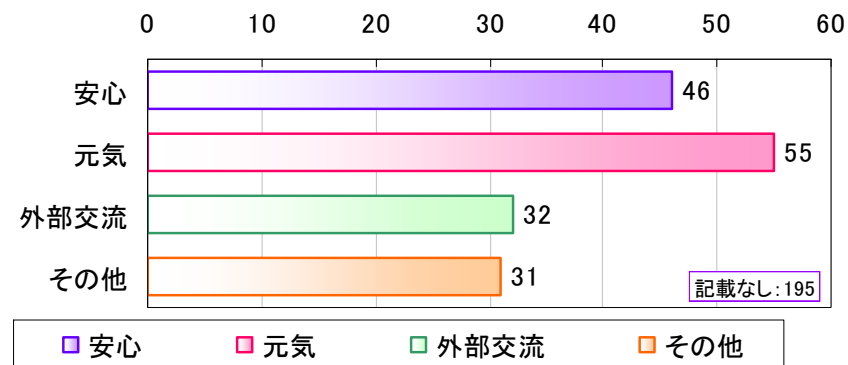


2-5. 集落元気づくりに向けた取り組み状況と意欲

(2) 集落元気づくりのアイデア(質問11)

- ・集落元気づくりのアイデアは、「元気につながるアイデア」との回答が55集落あり、「安心につながるアイデア」との回答が46集落あった。

※「安心」とは、集落の安心(生活サービスの拡充、防災機能強化等)につながるアイデア
「元気」とは、集落資源の活用を目的としたアイデア
「外部交流」とは、都市部、周辺地域との交流・連携を目的としたアイデア



(単位: 集落数)
※複数回答

図 集落元気づくりのアイデア

2-6. 集落の地域資源

(1) 集落内の誇るべき地域資源(質問6)

- ・「風景」との回答が41集落となり、次いで「寺社・ほこら」との回答が36集落となっている。

(2) 集落内で今後活用可能な資源(質問7)

- ・「耕作放棄地」との回答が35集落となり、次いで空き家が25集落、廃校が25集落との回答となっている。

(3) 集落内の山の幸や海の幸(質問8)

- ・「山菜」との回答が154集落と特に多く、次いで魚介類との回答が23集落となっている。
- ・食材の量は、「集落家庭内で食するほどある」との回答が128集落となり、「販売可能なほど食材がある」との回答が50集落となっている。

(4) 子孫に伝え、残したい伝統、文化、芸能、風習(質問9)

- ・「伝統芸能」との回答が62集落となり、次いで「祭り」が36集落となっている。

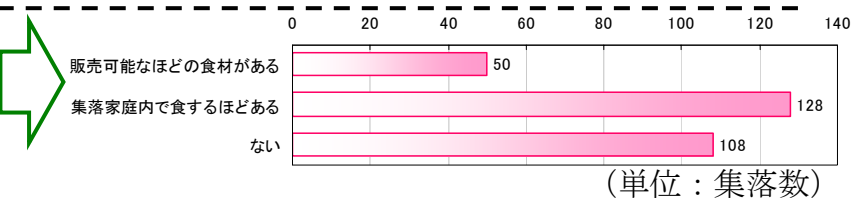
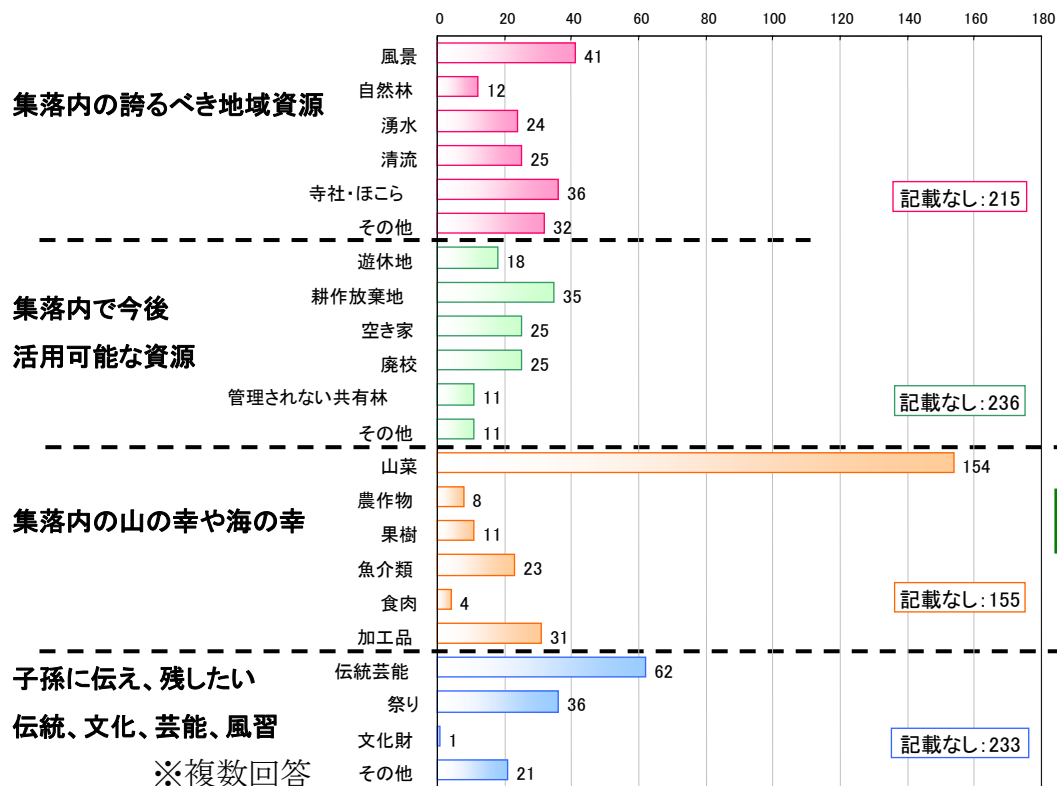


図 集落にある食材の量

図 集落の地域資源
(単位：集落数)

3. 自治体アンケート調査の結果

3-1. 集落の基本属性

(1) 自治体の集落の基本単位の考え方(質問1)

- ・集落の基本単位の考え方は、「自治区・地区・小学校区など、一定の規模で指定」しているとの回答が、約7割を占める。
- ・「町丁目・大字などの住所表示で指定」及び「市町村合併の前の行政区(旧町域・村域)で指定」との回答が、それぞれ約1割を占める。

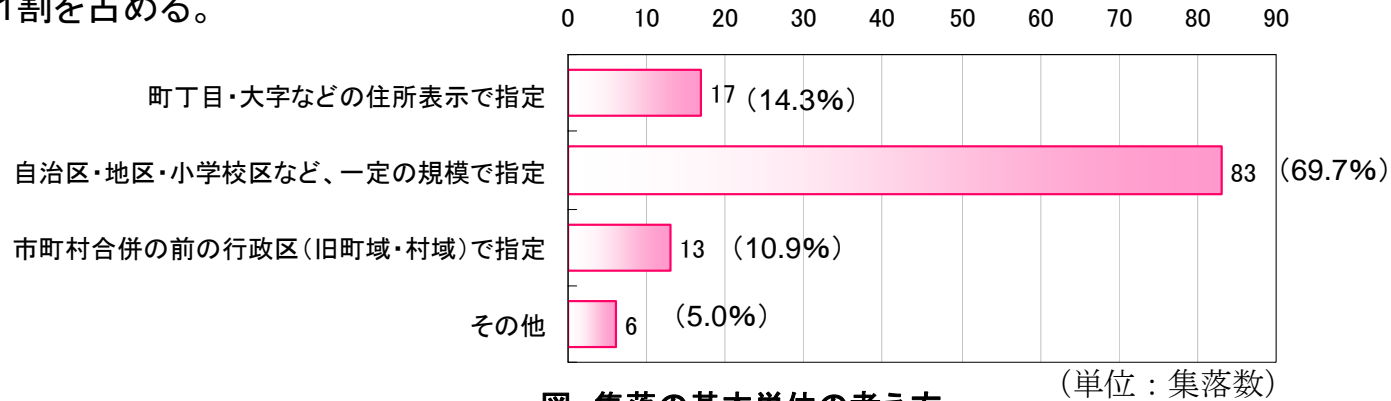


図 集落の基本単位の考え方

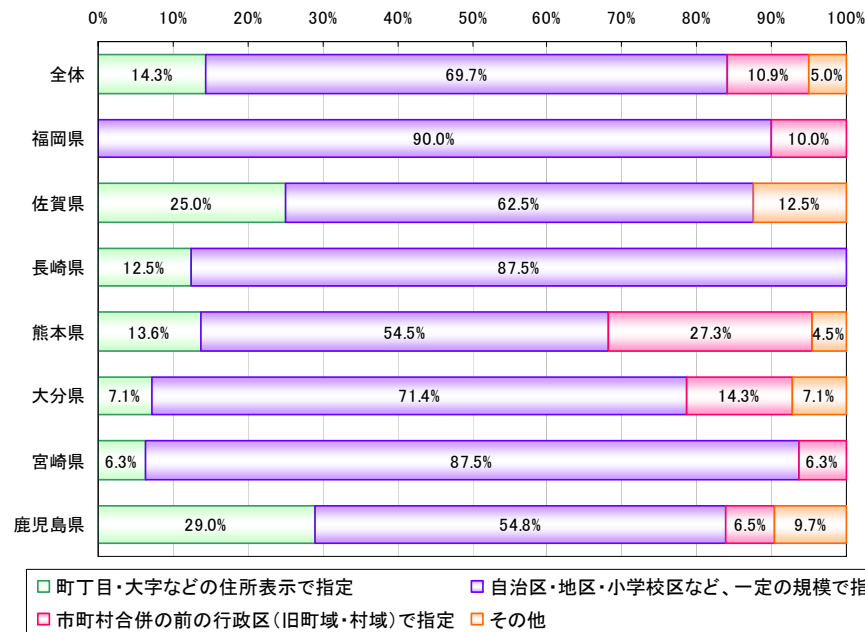


図 自治体における集落の基礎単位の捉え方(県別)

3-2. 集落の交流機能・生活機能(質問1)

(1) 集落の交流(コミュニティ)機能

- ・「集会場施設が有る」との回答が約7割を占める。
- ・「学校施設(建築物や敷地の残っている廃校含む)が無い」との回答が約8割を占める。
- ・「その他公共施設(集落の寄り合いに利用可能な施設)が無い」との回答が約8割を占める。

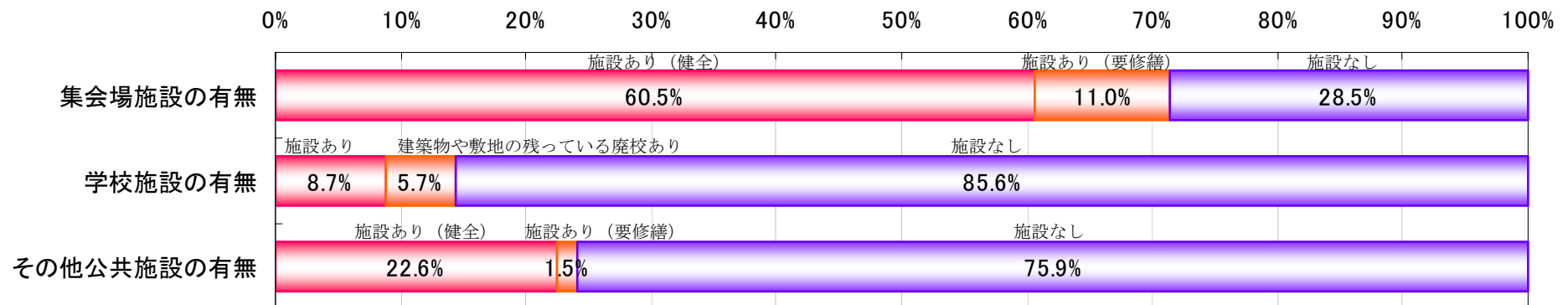


図 集落の交流(コミュニティ)機能

3-2. 集落の交流機能・生活機能(質問1)

(2) 集落の生活サービス

- ・「交通インフラの整備状況」は、「狭隘な道路(待合離合)」との回答が約3割を占める。
- ・「ブロードバンドの整備状況」は、「整備無し」、「自治体内一部整備」との回答が約7割を占める。
- ・「携帯電話の通話圏域」は、「問題なく通話可能」、「一部通話に不通箇所あり」との回答が、合わせて約8割を占める。
- ・「介護・福祉訪問サービスの担い手」は、「集落内にいる」、「域外も含め集落外からのサービス」との回答が、合わせて約8割を占める。
- ・「福祉施設の状況」は、「福祉施設が徒歩圏内にあり」、「福祉施設への送迎サービスあり」との回答が、合わせて約8割を占める。
- ・「公共交通の運行状況」は、「無し」との回答が4割を占める。
- ・その他、「商業機能の状況」で「無し(車等で買出し)」との回答が約7割、「医療機能の状況」で「無し(救急車か車で搬送)」との回答が約8割、「小学校の状況」で「バス等交通手段が必要」との回答が約5割を占める。

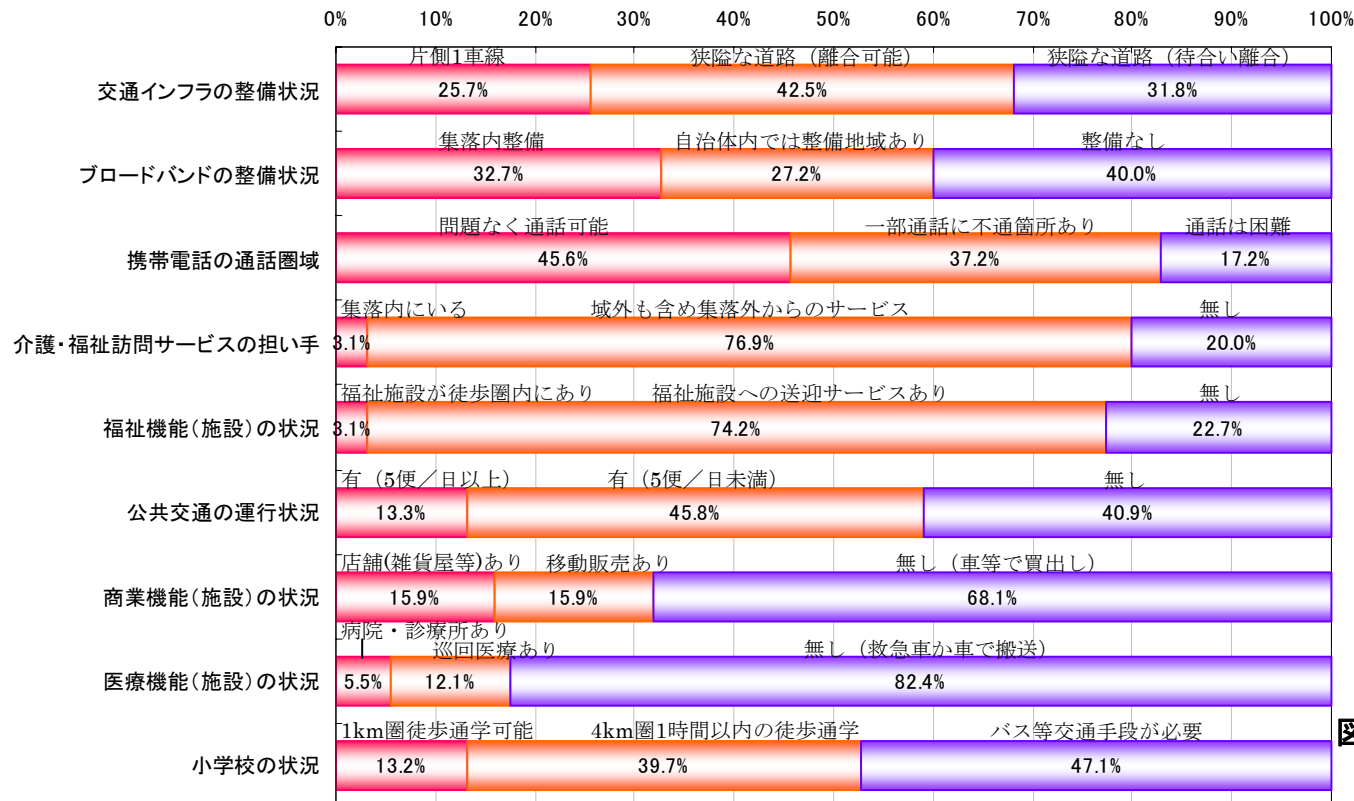


図 集落の生活サービス

3-3. 集落元気づくりへの協力体制(質問2)

- ・「集落対象の取り組み意欲が確認された場合は、職員の派遣等協力が可能である」との回答は、約3割を占める。
- ・「取り組みを支援できる組織(住民団体・事業者等)を紹介することが可能である」との回答は、約1割を占める。
- ・「対象集落の取り組み意欲やその他集落情報の共有化を図りたい」との回答は、約6割を占める。

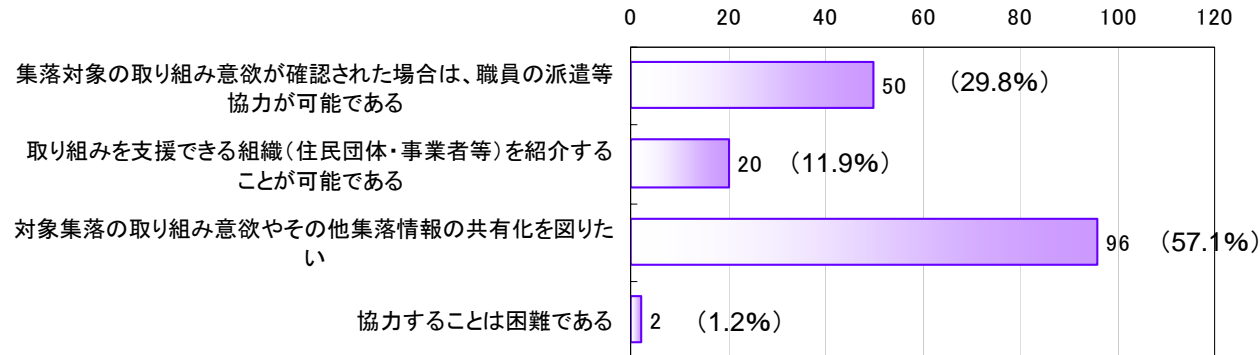


図 集落元気づくりへの協力体制 (単位：集落数)

3-4. 対象集落の再編の予定(質問4)

- ・「集落再編を既に実施している集落」との回答は、14集落(3.2%)となっている。
- ・「集落再編の予定がある集落」との回答は、73集落(16.7%)となっている。
- ・「集落再編は予定されていない」との回答は、約8割となっている。

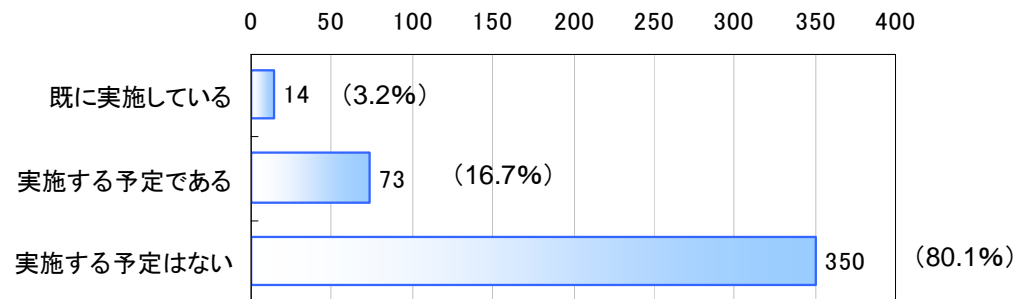


図 集落の再編 (単位：集落数)

3-5. 集落支援アイデア(質問3)

- ・「安心につながるアイデア」が、19自治体あり、「元気につながるアイデア」が16自治体あった。
- ・「外部交流」が、22自治体あった。

※「安心」とは、集落の安心(生活サービスの拡充、防災機能強化等)につながるアイデア

「元気」とは、集落資源の活用を目的としたアイデア

「外部交流」とは、都市部、周辺地域との交流・連携を目的としたアイデア

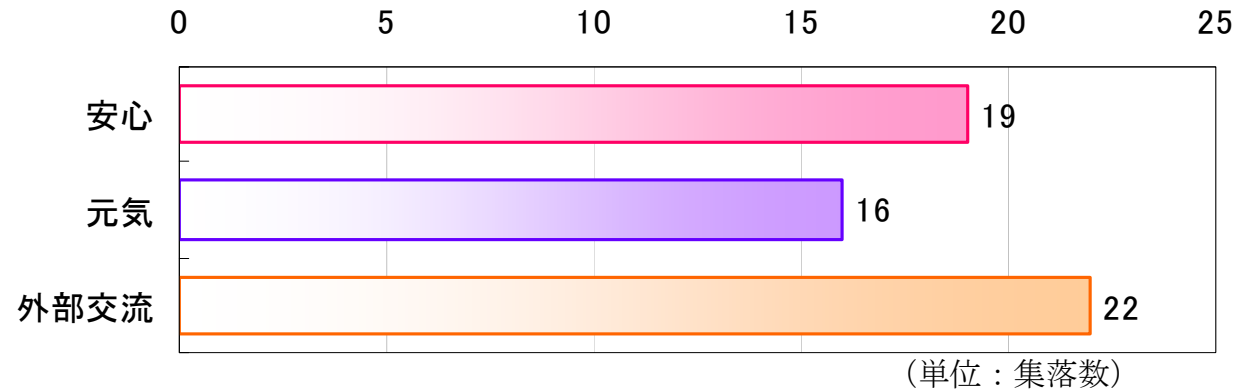


図 集落元気づくりへのアイデア